



- 1 気候変動やグローバル化に対応、多様性の尊重
- 2 一人一人の生徒が快適に楽しく生活できる制服
- 3 生徒の主体性や自己有用感を伸ばす機会

袋井市内4中学校は、生徒や保護者、地域の皆様と、新しい時代の制服を検討しています



【12月19日(月)に実施された第1回制服選考委員会で、各中学校の生徒代表の提言を視聴する選考委員】

Q1：新しい制服を検討する目的は、どのようなものでしょうか

私たちは、制服検討をする目的として、次の3点を確認しました。

- (1) 気候変動やグローバル化の進展といった課題に加え、多様性を尊重する考え方に対応した新しい時代の袋井市立中学校の制服を検討する。
- (2) 人権尊重の立場に立ち、一人一人の生徒がより快適に、より楽しく学校生活を送ることができるような制服の在り方を検討する。
- (3) 全ての生徒がより快適な学校生活を送れる制服について、生徒自身が考えることで生徒の主体性や自己有用感を伸ばす手立てとする。



Q2：生徒の人権や快適性に配慮した制服とは、どのような制服でしょうか

袋井市内の4中学校で、現在使用している制服は、詰襟学生服やセーラー服です。

保護者や地域住民にとっては長く親しみがあり、今の制服のままでいいのではないかという意見もあります。一方で、気候変動や時代の変化に伴い、制服の機能性や経済性、多様性などの様々な観点から制服の再検討が静岡県内の近隣の市町を含め、全国各地で進められているのも事実です。

このような状況から、袋井市においても、これからの時代を生きる子供たちの制服はどうあるべきかについて検討するため、制服の検討を始めました。

第1回制服選考委員会において、袋井市内4中学校の生徒たちが、制服や校則の在り方について、生徒会を中心に定期的に話し合ってきた生徒の視点からの新制服への提言を、動画で発表しました。



【学園ごとに分かれて意見交換をしました】

Q3：新しい制服を検討する上で大切にしたいことは、どのようなことでしょうか

第1回選考委員会では、次の7点について、校長代表が説明しました。

(1) 中学校における制服の意義は大きく、今後も制服は大切であること

全国的にも多くの中学校で制服が定められているように、生徒にとって制服のメリットが大きいことから、袋井市の中学生にとって制服は大切だと確認されました。アンケートでも儀式や入試、冠婚葬祭での制服の必要性が指摘されていました。また、登校後すぐに体操服等に替えている袋井市の現状も見直し、TPOにあった服装ということで、学校で制服を着ている時間を長くしていきたいと考えています。

(2) 市内で制服を統一することで、保護者の負担軽減や利便性の維持を考慮すること

4中学校の制服が統一されることで、リサイクル等の利便性が上がると考えました。また、販売業者にとっても統一した方が販売しやすく、結果として価格や品質、サービスの個性化につながり、購入する際に選択肢が増えると考えています。

(3) 男女の性差をできるだけなくし、組合せを生徒が選択できる制服にすること

男女の区別なく、ブレザー、スカートやスラックス、リボンやネクタイ等を自由に組み合わせで生徒が選べる形にしたいと考えています。生徒自身が、寒暖に応じて自ら選択・決定できること、各自が選んだ様々な組合せが混在することは自立性と共に、多様性を認める寛容な態度を培うことにつながると考えます。

(4) 価格は、従来のもより高くないことを条件に入れて業者に依頼すること

昨今の急激な物価高もあり、不透明な部分もありますが、従来の子生服・セーラー服と比べ同等か、それより安くなることを条件として業者へ依頼します。

なお、デザイン（仕様書）を決定した後、メーカーを一社だけに限定する「一社縫法方式」ではなく、仕様書に沿っていれば、どのメーカーでも作ることができる「各社縫法方式」を採用し、価格や品質等の競争を促します。

(5) リボンやネクタイ等は、生徒の意見を聞きながら、各中学校単位で決めること

リボン、ネクタイ、ボタン、エンブレム等は、各中学校で令和5年度1学期に生徒主体で決めていきます。ベストやカーディガンなどの防寒着についても、生徒の意見を聞きながら各学校で決めていきます。また、ブレザーの下は白のワイシャツ、白のブラウスとし、メーカー等の指定はしません。

(6) 令和6年度入学生からの導入を目指す、移行期間を設けること

3年間(令和6、7、8年度)は、入学の際に新旧どちらでも選択可とし、おさがりの問題に対応します。在校生(令和4、5年度入学生)も希望があれば、新制服の購入や着用はできます。どのくらいの移行期間が適切かは、今後検討していきます。

(7) 学園としての小中統一の制服は、現時点では考えていないこと

一貫教育を進めていますが、施設分離型であり、小中で制服をそろえることは現時点では考えていません。弾力的な運用については、各学園で今後議論を深めていきたいと考えています。

Q4：生徒たちや小中学校保護者のアンケートは、実際にどのような結果でしたか

1 アンケートの目的

袋井市4中学校の制服は、それぞれの伝統を大切に受け継がれてきました。

しかし、時代の変化に伴い、制服の機能性や経済性、多様性などの様々な観点から、制服の再検討が、全国各地で進められています。

このような状況から、袋井市においても、これからの時代を生きる子供たちの制服はどうあるべきかについて検討するため、生徒や小中の保護者を対象に、現行の制服に対する意識調査と、制服を見直すことについての意見集約を行いました。



2 アンケートの概要 (令和4年11月～12月実施)

- (1) 対象 袋井市内中学生(1～3年)・袋井市内小中学校保護者(小3～中3)
- (2) 回答数 中学生：1152人 中学校保護者：1464人 小学校保護者：2100人 合計：4716人

袋井市4中学校第1回制服アンケート (中学生:1152人・中保護者:1464人・小保護者:2100人・計:4716人)

No.	アンケート項目	対象	思う・やや思う		思わない・あまり思わない	
			思う・やや思う	思わない・あまり思わない	思う・やや思う	思わない・あまり思わない
詰襟学生服	1 伝統的な学生らしいスタイルでよい	中学生	71%	29%		
		中学保護者	74%	26%		
		小学保護者	65%	35%		
	2 襟元が苦しい	中学生	71%	29%		
		中学保護者	81%	19%		
		小学保護者	84%	16%		
	3 春先に暑い	中学生	78%	22%		
		中保護者	86%	14%		
		小保護者	87%	13%		
	4 国際的でない今の時代に合わない	中学生	39%	61%		
		中保護者	46%	54%		
		小保護者	54%	46%		
	5 新しい制服に変えた方がよい	中学生	50%	50%		
		中保護者	47%	53%		
		小保護者	58%	42%		
セーラー服	1 伝統的な学生らしいスタイルでよい	中学生	75%	25%		
		中保護者	80%	20%		
		小保護者	72%	28%		
	2 直接肌に触れるため清潔感に欠ける	中学生	40%	60%		
		中保護者	57%	43%		
		小保護者	61%	39%		
	3 温度調節が難しく特に冬は寒い	中学生	83%	17%		
		中保護者	87%	13%		
		小保護者	87%	13%		
	4 着丈が短く下着が見えやすい	中学生	50%	50%		
		中保護者	64%	36%		
		小保護者	70%	30%		
	5 スカートで自転車に乗るのは乗りにくい	中学生	70%	30%		
		中保護者	80%	20%		
		小保護者	82%	18%		
6 国際的でない今の時代に合わない	中学生	45%	55%			
	中保護者	45%	55%			
	小保護者	51%	49%			
7 新しい制服に変えた方がよい	中学生	61%	39%			
	中保護者	50%	50%			
	小保護者	61%	39%			
その他	1 市内制服がそろっているほうがよい	中学生	33%	67%		
		中保護者	37%	63%		
小保護者		68%	32%			
2 制服の優先事項ベスト4	中学生	①着心地	②洗濯可能	③軽い	④価格	
	中保護者	①洗濯可能	②温度調節	③耐久性	④価格	
	小保護者	①洗濯可能	②価格	③耐久性	④温度調節	

(1) 伝統的な現行の制服に愛着がある生徒や保護者が多かった。

(2) 一方で、生徒も保護者も、現行の制服は温度調節が難しく、襟元が苦しい。春先に暑い、冬は寒いなど着心地に課題があるという意見が多かった。

(3) 学生服は生徒と小中学校保護者で5割前後が変えた方がよいと回答している。

(4) セーラー服の着丈やスカートに課題があると考える生徒や保護者が多かった。

(5) セーラー服は生徒と小学校保護者では、約6割が変えた方がよいと回答している。

【自由記述の概要】
 現行の制服のリユースや物価高騰の状況から、新制服への変更に対する意見があった。
 気候や生徒の個性に応じて、生徒が主体的に選択できる新しい制服を期待する意見があった。
 ジェンダーレスの視点から、性差が少ない制服に変更した方がよいという意見もあった。
 新制服になる場合は、生徒の声を反映することや移行期間への配慮などの要望があった。

